

栽培が容易で良食味のアールスメロン新品種 ‘秋田甘えんぼ (秋試交2号)’ の育成

椿 信一・佐藤 孝夫

(秋田県農業試験場)

Breeding of a New Muskmelon Cultivar “Akita Amaenbo (Akishiko-2)”

with High Flavor Quality and Easily Cultivation

Nobuichi TSUBAKI and Takao SATO

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

8月下旬~10月下旬に収穫する抑制メロンは、夏期比較的低涼な秋田県で有利な作物である。しかし、市販のアールスメロン品種の利用では、食味で高級メロンである純系アールスに及ばないため、単価が安く栽培面積が伸びていない。そこで生産者の要請を受け、抑制栽培で純系アールス並の食味で、他産地と差別化できる本県独自のアールスメロンの育成を図った。

2 育成経過

‘秋田甘えんぼ’はアールスメロン選抜固定系統と、純系アールス選抜固定系統のF1品種である(図1)。

母本は1994年に導入した‘アールスセイヌ夏II’の後代選抜固定系統で、1998年にF6世代で固定した。本系統は、果実外観と日持ち性に優れ、うどんこ病に強く、つる割病の抵抗性を保持している。

父本は秋田県農業試験場で保有していた‘アールスフェボリット夏系’の選抜固定系統で、1995年から3年間純系選抜を繰り返して、1998年にS4世代で固定した。本系統

は食味が良く、抑制栽培でも果形が乱れない特性を持っている。

両者を組み合わせてF1を作出し、1999年と2000年の2年間にわたって‘秋試交2号’の系統名で抑制栽培を実施した。その結果、有望性を確認して育種を完了した。

3 特性概要

(1) 生育特性

草丈が低く、葉が小さくコンパクトな草姿である。両性花の着生率が高く、平均着果節位も10.6節と低節位で安定している。また収穫期まで葉色が濃く、草勢が強く維持されるため、栽培が容易である(表1)。

(2) 果実外観特性

果重の平均が1.62kgと大きさが適度で、縦径と横径の比率が1.04と球形に近い。果皮色は灰緑で、ネットはやや細めながら密に発生して縦ネットと横ネットのバランスが良い(表2, 写真1)。

(3) 果実内容特性

糖度は果肉中部で17度と高い。果肉色の黄色みが強く、果肉質は緻密なメルティング質で純系アールスに極めて近

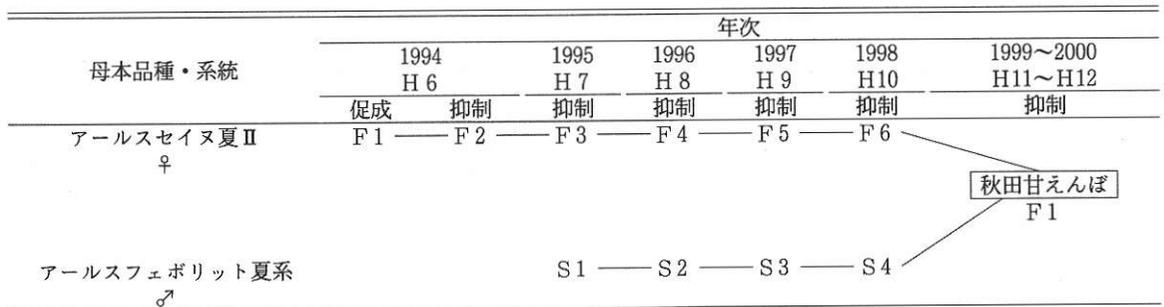


図1 ‘秋田甘えんぼ’の育成経過(世代)

表1 生育特性(2000年, 育成地)

品種名	草丈 (cm)	展開葉数	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	開花日 (月/日)	両性花着生率 (%)	着果節位 (節)	茎径 (mm)	葉色	草勢	成熟日数 (日)
秋田甘えんぼ	144	21.2	18.1	29.4	7/26	99	10.6	12.9	濃緑	やや強	60
アールスナイト夏系2号(対照)	157	22.2	19.7	31.0	7/25	100	10.8	12.1	緑	中	61

注. 播種: 5月29日, 定植: 6月27日, 収穫: 9月25日。ビニールハウスにて栽培。

z: 第10節側枝開花時の調査

表2 果実外観特性 (2000年, 育成地)

品種名	果重 (kg)	縦径 (cm)	横径 (cm)	縦/横 比	果皮 色	ネット			果梗 長 (mm)	花座 径 (mm)
						密度	太さ	高さ		
秋田甘えんぼ	1.62	14.5	13.9	1.04	灰緑	やや密	やや細	やや高	19	16
アールスナイト夏系2号 (対照)	1.71	15.8	14.2	1.11	灰	中	やや太	高	19	17

表3 果実外観特性 (2000年, 育成地)

品種名	糖度 (Brix)			色	硬さ	厚さ (cm)	果肉 質	食 <sup>z</sup> 味	日持 <sup>y</sup> ち (日)
	上部 (%)	中部 (%)	下部 (%)						
秋田甘えんぼ	15.6	17.0	16.8	黄緑	軟	3.8	メルティング質 (緻密)	4.3	7~12
アールスナイト夏系2号 (対照)	15.4	16.8	16.5	白黄緑	中	3.9	メルティング質 (粗)	3.2	9~14

注. z : 1 (優劣), 3 (中), 5 (極良)      y : 収穫後室温に放置しておいた場合の適食期間 (収穫後の日数)

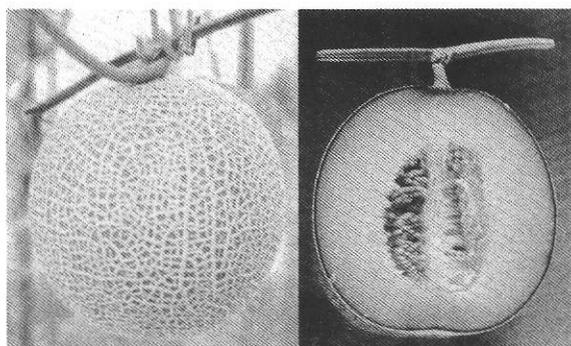


写真1 '秋田甘えんぼ' の果実

表4 病害抵抗性

品種名	つる割病 <sup>y</sup> 発病株率		うどんこ病 <sup>x</sup> 発病程度
	レース0 (%)	レース2 (%)	
秋田甘えんぼ	0	0	2.8
アールスナイト夏系2号	0	0	2.8
アールスフェボリット夏系 <sup>z</sup>	100	50	4.8

注. z : 純系アールスの一系統  
 y : 幼苗接種検定の結果 (1998年)  
 x : 圃場での発病程度 (1999, 2000年の平均値, 育成地)  
 0 : (無)  
 3 : (軽, 数回の薬剤散布で収穫可能)  
 5 : (甚, 定期的な薬剤散布が不可欠)

く食味評価も高い。収穫後の適食期間は7日~12日程度で日持ち性は十分である (表3, 写真1)。

(4) 病害抵抗性

メロンの主要病害の、つる割病とうどんこ病については、市販の 'アールスナイト夏系2号' と同程度である。すなわち、つる割病 (レース0, レース2) に抵抗性で、接ぎ木不要で連作が可能である。また、うどんこ病に対しては耐病性があり、軽度の発病は認められるが、罹病性の 'アールスフェボリット夏系' と比較して明らかに強く、減農薬栽培が可能である (表4)。

4 栽培上の留意事項

栽培方法は、草勢を管理しやすい立栽培の1本仕立て1果どりを厳守する。

本品種は高温適応性が高く、果実肥大期が高温期にあたるハウス抑制栽培 (4月下旬~7月上旬播種, 8月下旬~10月下旬収穫) に適応する。

市販品種同様、生育初期の土壌水分過多は果実品質を低下させるため、地下水位の高い水田転作 圃場等では水分を低めにコントロールできるように30cm以上の畝高を確保する。

5 ま と め

抑制地床栽培用の緑肉アールス系メロン新品種 '秋田甘えんぼ' を育成した。この新品種はコンパクトな草姿で、つる割病に抵抗性でうどんこ病に耐病性をもつため栽培が容易である。果実は球形でネットも良く、糖度が高くメルティング質で食味が良い (種苗登録申請中)。